

密かな涙

ウィンダヤー・ウェーラトゥンガ（スリランカ）

クマリさんは美しい少女でした。彼女はスリランカの中流家庭に生まれ、妹が二人いました。彼女の人生は、はじめから順風満帆というわけにはいきませんでした。彼女が10歳の時、父親が突然亡くなり、代わりに母親が急きょ一家の大黒柱となったのです。

クマリさんは長女として、仕事で忙しい母親に代わって料理や洗濯などの家事を引き受け、妹たちの勉強も見てあげなければなりません。彼女は妹たちの母親代わりでした。

このような家庭環境ではありましたが、スリランカの無償教育制度のおかげで、クマリさんは中等教育を終え、地元の大学への入学許可を得ました。経営学の学士号を取得して大学を卒業し、同時に金融の職業資格も得ました。

大学卒業後間もなく、クマリさんは民間企業に就職します。そこで熱心に働き、いくらか貯えもできました。それは、大学時代に出会ったサマンさんと結婚する際に、ささやかながら結婚式を挙げるための資金でした。そして結婚後は、サマンさんの実家で彼の家族と共に生活することとなりました。

間もなくして、クマリさんは妊娠しました。しかし結婚後に初めて、義母が精神疾患であるということを知りました。彼女はこの義母の指図に従わなければならない、外での仕事に加え、家では家族のために料理や洗濯をこなす日々を逆戻りしました。それでも、彼女は赤ちゃんが生まれる日を夢見て、心待ちにしていました。

しかし不幸なことに、クマリさんの人生は彼女が思い描いた通りにはいきません。赤ちゃんは死産となり、彼女は打ちのめされてしまったのです。それでも、通常の生活に戻らなくてはなりません。彼女は職場復帰し、仕事に幸せを見出しました。それから二年が経ち、クマリさんは再び妊娠し、男児を出産しました。

しかしながら、クマリさんの人生における悲惨な出来事はまだ続きます。息子が2歳ぐらいの頃、言語障害があると医師から告げられたのです。それでもクマリさんは、苦勞しながらも何とか仕事と家事の両立を続け、息子の世話も懸命にしました。これに対し、夫は仕事が忙しいことを理由に帰宅が次第に遅くなっていきました。そんな中、息子の症状が悪化し特別なケアが必要となったため、彼女はついに仕事を辞め、家で育児に専念せざるを得ない状況になりました。

このような困難な状況の中、ある日クマリさんは大きな衝撃を受けます。サマンさんが、職場の同僚と恋愛関係であることを告白し、離婚を要求してきたのです。クマリさんが離婚を拒否すると、サマンさんは不倫相手と暮らすために家を出ていきました。このことは、クマリさんだけでなく、特に子供に大きな影響を与えました。そして、ついに離婚に応じることにしたのです。しかし、夫から養育費を受けながらも独りで息子を育てているにもかかわらず、クマリさんは親権を得ることができませんでした。裁判所が子供の利益を最優先した結果、父親に親権を与える決定がなされたのです。これは、特に母親に収入が無い場合、スリランカではよくあるケースです。

新たな人生のスタートを切ろうと、クマリさんは海外への移住を検討していますが、元夫が息子を国外に連れ出すことを認めないため、それもかないません。また、仕事に復帰する機会もほぼ望めません。彼女はキャリアにブランクがあるため、企業が雇用を渋るからです。

仕方なくクマリさんは実家に戻り、実母と暮らすことにしましたが、高齢で隠居生活をしている実母は、彼女につらく当たります。実母自身も困難な人生を歩んできており、離婚した娘と障害を持つ孫という負担を強いられるのを嫌がっているのです。

スリランカにおいてこのような境遇にある女性は、クマリさんだけではありません。国内の裁判所では何百件もの離婚訴訟が係争中で、その数も急激に増えています。クマリさんのケースでは、元夫は不倫相手と再婚し、幸せな生活を送っています。一方クマリさんにとっては、このような状況に置かれた彼女と息子を受け入れてくれる男性を見つけるのは、大変難しいと思われます。もし再就職先が直ぐに見つからなければ、彼女の窮状は今後何年にもわたって続くでしょう。

クマリさんにはどのような将来が待ち受けているのでしょうか。彼女が密かに流す涙は、同じような境遇にある数多くのスリランカ人女性の苦悩を、私たちに語りかけています。

(本稿は実話に基づいています。プライバシー保護のため、仮名を用いています。)